

組立・施工・取扱説明書

お客様保管用

エバーアートボード 共通

このたびは、当社商品をご採用いただきまして、誠にありがとうございます。この商品を安全に正しく施工していただくため、この「組立・施工・取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しく作業を行ってください。

安全のために必ずお守りください

ここに示した注意事項は安全に関する最も重要な内容です。人身事故や財産への損害を未然に防止するため、お守りいただく内容を説明しています。内容をよく理解して本文をお読みください。また、本説明書および当社カタログに記載されている内容に反する施工やご使用をされた場合、保証対象外となります。

安全記号



警告

- 取り扱いを誤った場合、使用者が死亡もしくは重傷を負う可能性がある危険度が「高い」内容を示しています。



注意

- 取り扱いを誤った場合、使用者が中、軽傷を負う可能性がある内容、または物的損害の可能性があり危険度が「中、軽い」内容を示しています。

一般記号



ポイント

- 組み立て、施工手順で、特に注意して作業を進める必要がある内容を示しています。
- 注意して守っていただかないと、組み立て、施工が困難、あるいは強度不足のため、施工後不具合が発生する可能性がある内容を示しています。

組立・施工上のご注意

警告

- 風の強い場所、積雪の多い地域や地盤の弱い場所での施工には、控え柱等の補強が必要です。特に柱の固定を確実に行ってください。転倒など事故の原因となります。
- 屋上やかけの上など、商品が落下した場合にケガをする可能性のある高所には設置しないでください。
- 取扱説明書に表示している基礎部の埋め込み深さは一般的な場合です。現場の地盤状態に合った基礎部の寸法(体積)にて施工し、安全を確保してください。
- 施工時、コンクリート(またはモルタル)には、塩分を含む砂(海砂)や、コンクリート用湿和剤(凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤など)で塩素系や強アルカリ系の場合は、絶対使用しないでください。使用すると、金属部分が腐食し、破損、倒壊の可能性があり危険です。

注意

- 組み立て、施工場所の整理整頓、適切な安全確保を行ってください。高所作業での転落、工具、部品の落下や倒壊の防止、暗所作業時の照度の確保などを必ず行ってください。
- 工具、器具、保護具(作業服、保護帽、安全靴、安全帯、その他作業者身体の一部)などは、安全機能を十分に確認し、正しく使用してください。また不具合のあるものは使用しないでください。
- 大型商品は、安全に組み立てるため、施工は2人以上で行ってください。
- 組み立て、施工は正しく行わないと危険です。組み立て、施工前に必ず取扱説明書をお読みください。
- 必ず取扱説明書に従って正しく施工してください。正しい順序で施工されなかった場合には、商品の強度など性能が低下するほか、倒壊につながる場合があります。
- 梱包明細表で必要な部材、部品がすべて揃っているか確かめてから、組み立ててください。
- 立てかけると変形の恐れがありますので、平らな場所に水平置きし、保管してください。

- エバーアートボードは、アルミとプラスチックの複合材です。割れにくい素材ですが、衝撃や異物の挟み込みにより、キズやへこみ、エッジの変形が生じる恐れがあります。運搬、保管、加工、施工時、取り扱いには注意してください。
- 設置場所に正しく施工でき、不具合なく使用することができることを確認してください。
- 給湯、暖房機などの熱排気が商品で妨げられ建物内部にこもったり、適切な換気ができなくなるような場所には設置しないでください。
- 給湯、暖房機などの排気熱が直接商品に当たると被膜の劣化、はく離につながります。熱の影響のない場所に設置してください。
- 通路など、通行の妨げになる場所には設置しないでください。
- 給排水管などの地下埋設物に影響を与えないか位置を確認してから施工してください。
- 高台、強風地域、特にかけの上、屋上、風の通り道などへの設置は避けてください。
- 風の強い場所では、商品の周囲に十分な空間を確保してください。周囲を囲うと商品に予想以上の風圧がかかり、破損、倒壊の可能性があります。
- 水はけの悪いと思われる場所には設置しないでください。
- 常に水や温水に触れたり水没する場所、また温泉やそれに類する水質に触れたり水没したりする場所には設置しないでください。
- 振動、衝撃のある場所には設置しないでください。商品の破損、倒壊につながります。
- 大気中に強い酸やアルカリ成分が多く含まれる場所には設置しないでください。商品の性能が低下する可能性があります。
- アルミ製品は、鉄や銅など(ステンレス以外)の異種金属と直接接触すると、腐食する可能性があります。接触する場合は、ビニールテープを巻くか塗料を塗るなどの処理を行ってください。
- 腐食成分(塩素イオンなど)を多く含んでいる輸入木材の併用は避けてください。もし使用される場合は、必ずアルミと接触する部分の木材に塗装するなどの処理を行ってください。
- 商品が腐食する可能性のある接着剤や溶剤などの化学薬品に、接することがないように注意してください。
- 取扱説明書に表示している基礎部の埋め込み深さは一般的な場合です。現場の地盤状態に合った基礎部の寸法(基礎体積)にて施工し、安全を確保してください。
- 土地の高低にかかわらず、柱の埋め込み深さを十分確保してください。
- 組み立て、施工時は、商品にキズがつかないように十分注意してください。

組立・施工上のご注意

⚠ 注意

- 組み立て、施工用のボルト、ビスは規定本数(当社指定純正品)を確実に締め付け、固定してください。
- エバーアートボードの面材はアルミを使用しています。湿潤状態で異種金属と接触すると、電位差により、電食が発生します。接合に使用するリベット、ボルト類の材質は、電食を考慮して選んでください。
- エバーアートボードの切断面は、大変危険です。加工、施工時は、保護手袋等を使用してください。
- 商品にバリがある場合は取り除いてください。特に切り詰めなど現場加工の場合は必ず行ってください。
- 組み立て、施工時に、雨水がたまらないように十分注意してください。
- 商品の一点をハンマーで叩いたり、ハンゴをかけるなどして強い衝撃を与えますと破損事故の原因になりますので、絶対しないでください。
- 商品を異なる材質のものに固定すると温度差により多少伸縮する場合があります。施工時に、商品に必ず大きめの穴をあけて固定してください。
- 柱の水抜き穴は、モルタルなどで塞がないでください。
- 組み立て、施工時、商品にコンクリート(またはモルタル)の抽出液が付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性のため、施工後シミ、ムラなどが発生し、外観不良の原因になります。付着した場合は、速やかに水を含ませた布などでふき取ってください。
- コンクリートは製品に記載されている配合率や注意事項に従って使用してください。養生期間(4~7日)は十分に確保し、養生期間中は重量物をのせたり、振動させたり、物を立てかけたりはしないでください。
- 商品に雨水がたまらないように、適切な位置に水抜き穴をあけることをおすすめします。
- 雨水等の浸入防止のために、必要な箇所には必ずシーリング材を充填してください。
- 組み立て、施工終了後は、必ず商品が正しく組み立てられているか確認してください。特にボルト、ビスなどにゆるみがないか確認してください。
- 組み立て、施工終了後は、施工時の汚れをきれいに取り除いてください。
- 施工後の残材は他の一般廃棄物と区別し、素材別に分けた上で専門業者に処理を委託してください。
- 構造物、建築物の屋根などからの雪の落下を受けない位置に設置してください。
- 積雪のある地域では、雪により商品が倒壊しても危険がない場所に設置してください。
- 凍上する可能性のある寒冷地に設置する場合は、必ず凍上線の下まで基礎部を確保するように施工してください。
- 寒冷地でご使用になる場合は、柱に水抜き穴をあけて、柱用の穴に柱を立ててから、モルタルを入れてください。モルタルを入れてから柱を立てると、柱の内部に水がたまり、凍結破損の原因になることがあります。
- 安全を確保するため、組み立て、施工は必ず専門の業者が行ってください。
- 商品の改造は絶対にしないでください。商品の性能が落ち、強度不足による破損、倒壊の可能性があり危険です。
- 誤った使用を避けるため、組み立て、施工終了後、必ず取扱説明書はお施主様にお渡しして、取り扱いの注意、メンテナンスについて説明してください。

使用上のご注意

⚠ 警告

- アルミ製品は、高温になる場所では他の金属材料に比べて熱による変形が生じやすい材料です。商品の近くで火気を使用しないでください。
- 運動具やお子様の遊具、踏み台、ふとんや洗濯物を干す等、目的以外の使用は絶対にしないでください。

⚠ 注意

- 商品の一点をハンマーで叩いたり、ハンゴをかけるなどして強い衝撃、荷重を与えると破損、倒壊事故の原因になります。絶対しないでください。
- 無理な荷重をかけないでください。商品の上で飛んだり、跳ねたりしないでください。ぶらさがったり、寄りかかったりしないでください。人が乗ったり、体重をかけたりしないでください。

使用上のご注意

⚠ 注意

- 局部的に重い物をのせたり、立てかけたり、ぶらさげたりしないでください。ボールなど投げつけたりしないでください。
- 商品の付近で農薬や殺虫剤などの薬剤を使用する場合は、表面に付着しないようにしてください。表面が変色する恐れがあります。
- 安全性の高い材料を使用しておりますが健康を害する恐れがありますので、小さなお子様やペットがなめたり、かじったりしないように注意してください。
- 商品の切り口に切断時のバリが残っている場合や、現場加工にともないさくくれが発生する場合があります。手などにケガをしないように、取り扱いには十分注意してください。発見した場合は放置せず、施工店様に連絡してください。
- 商品を改造したり、穴をあけたり、当社オプション品、付属品以外の取り付けは避けてください。商品の性能が低下する可能性があり危険です。
- アルミ製品の表面にキズが付いたり、塗装はがれが生じると、商品の腐食や強度低下の原因になりますので、取り扱いには十分注意してください。
- エバーアートボードの熱変形温度は約110℃で、ポリエチレン単体より高くなっています。大きな力がかからない状態で、短時間であれば、100℃程度の高温にも耐えられます。ただし、実用上、高温雰囲気でも長時間使用する場合は、70℃程度までで使用してください。
- エバーアートボードの面材はアルミを使用しているため、アルミ単板と同様に、腐食が生じます。酸性やアルカリ性の物質(土やモルタル等)に直接触れないようにしてください。
- エバーアートボードの端部が、アルミを侵す環境(海岸部等)におかれる場合は、注意して使用してください。
- 強い雨の場合、雨水が浸入する可能性がありますので注意してください。
- 安全のため、定期的な接合部のボルト、ナット、ビス等にゆるみがないか確認して使用してください。ゆるみがあれば締め直しを行ってください。お施主様でできない場合は施工店様に依頼し必ず直してください。
- 商品が破損したり、グラつく場合は、すぐに施工店様に連絡してください。破損したままで使用していると事故の原因となり危険です。

メンテナンスのご注意

◆汚れの程度と掃除方法

内容	用具	方法
軽い汚れの場合	柔らかい布 スポンジ 水	柔らかい布、スポンジで水ぶきした後、からぶきしてください。
ひどい汚れの場合	柔らかい布 中性洗剤	中性洗剤を薄めた液で汚れを落とし、洗剤が残らないように水洗いしてください。その後、からぶきしてください。

◆お手入れのご注意

- お手入れには布やスポンジなどの柔らかいものを使用してください。
- 金属ブラシ、金ペラ、スチールワール、目のあらい紙ヤスリなどは使用しないでください。
- 小石、砂などが付着したままこすると、アルミ表面にキズが付きます。あらかじめ取り除いてください。
- 酸性およびアルカリ洗剤、アルコール、ベンジン、アセトンなどの有機溶剤や石油類などは使用しないでください。アルミの腐食、塗膜のはがれ、ツヤ落ちの原因になります。
- 市販のクリーナーは、成分をよくチェックし、事前に目立たない部分に使用し、塗膜の変化や軟化等がないか確認してください。
- 安全のため、定期的なガタツキがないか確認してご使用ください。
- 工業地帯や海岸の近くなどでは、状況によりお手入れの回数を増やしてください。
- 定期的なお手入れにより、アルミ製品をいつまでも美しく保つことができます。

廃棄について

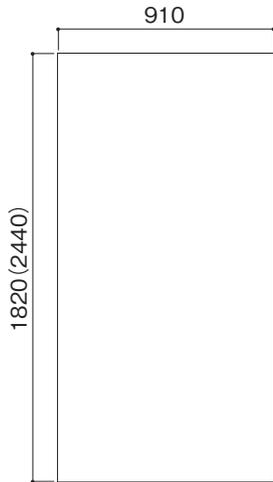
ご不要になった商品、また現場で発生しました残材等につきましては、各地域の条例等に従って正しく処分してください。

基本寸法

⚠️ ご注意

木目調、石目調は柄目、色目がありますので、ご注意ください。
デザインに合わせて、施工してください。

■エバーアートボード



※琉川(りゅうせん)2色と石柄は、横貼りのみとなります。

W1820×H910mm

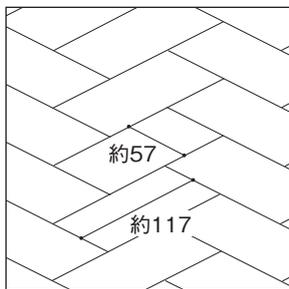
※()内は3×8板

カラーが限定されています。

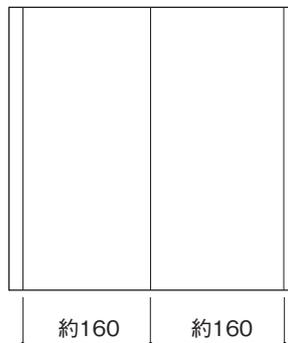
t=3mm

■エバーアートボード 柄 詳細

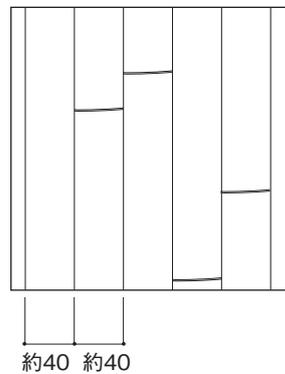
あじろ



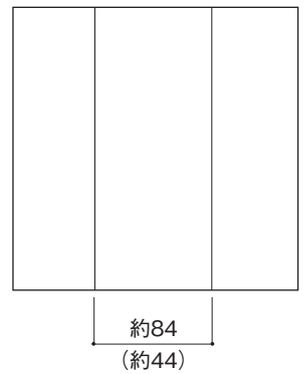
墨板



建仁寺すす竹

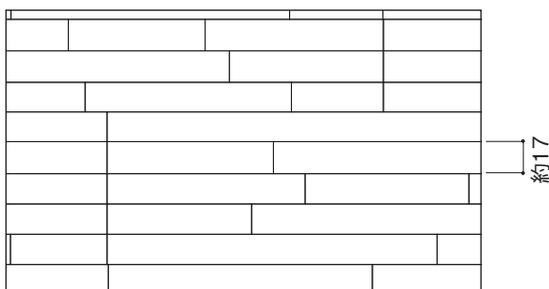


ジャラ、ジャラ細格子

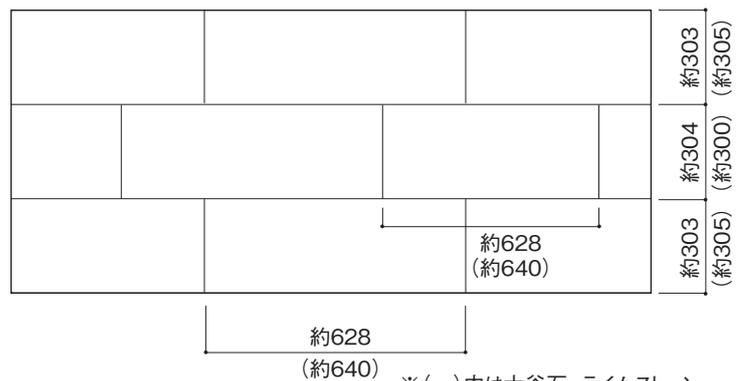


※()内はジャラ細格子

ランダムストーン



タイルトラバーチン、大谷石、ライムストーン

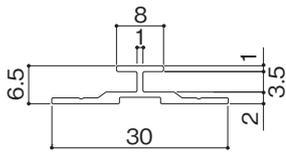
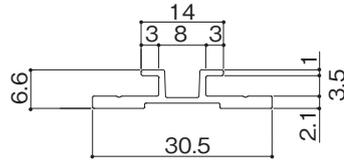


※()内は大谷石、ライムストーン

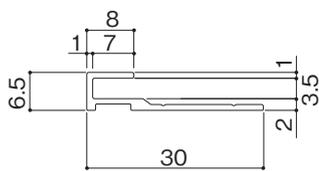
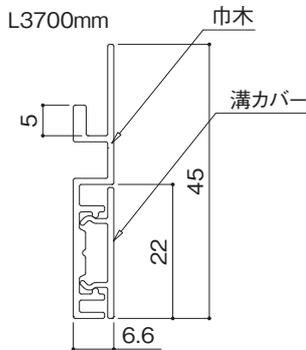
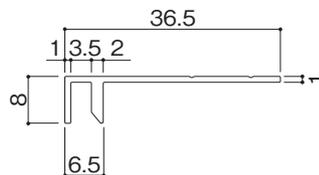
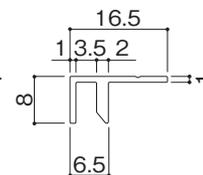
※縦目地の位置はボードにより異なりますので、
実物で割り付けをご確認ください

基本寸法

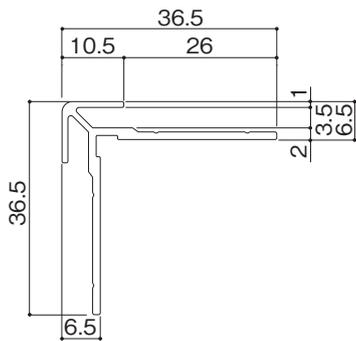
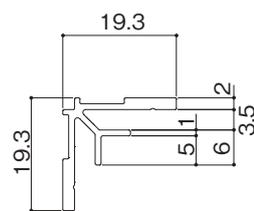
■エバーアートボード ジョイント

 平目地
L3700mm

 溝付
L3650mm


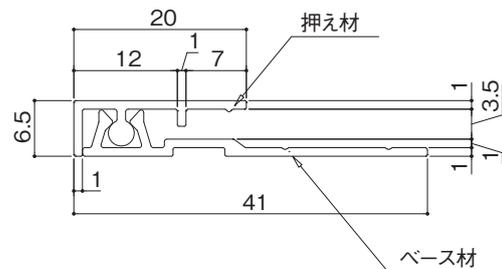
■エバーアートボード 見切材

 見切材
L3700mm

 巾木
L3700mm

 ロング
L3700mm

 ショート
L3700mm


■エバーアートボード コーナージョイント

 出隅 コーナー
L3700mm

 入隅 コーナー
L3650mm


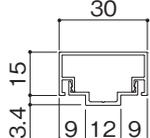
■エバーアートボード 嵌合式見切材

 押え材
L3700mm

 ベース材
L1850mm

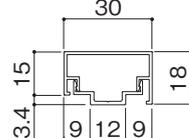
■エバーアートボード 押え縁

L3650mm

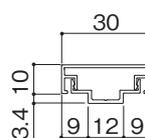
押え縁 30×15 センター



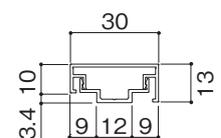
押え縁 30×15 エンド



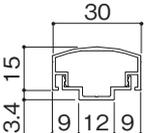
押え縁 30×10 センター



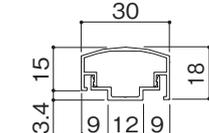
押え縁 30×10 エンド



押え縁 30×15R センター



押え縁 30×15R エンド

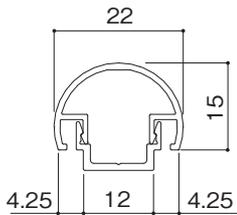


基本寸法

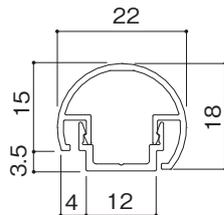
■エバーアートボード 押え縁

L3650mm

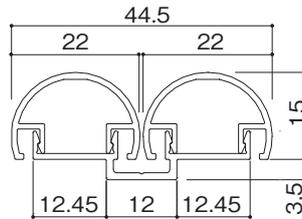
丸竹押え縁 1本使い センター



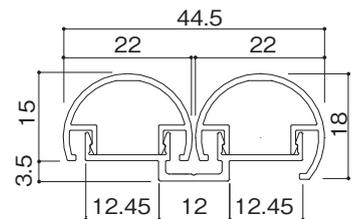
丸竹押え縁 1本使い エンド



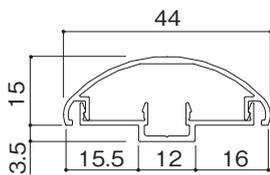
丸竹押え縁 2本使い センター



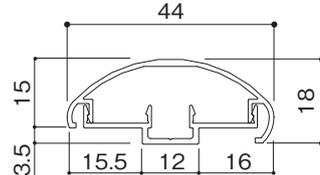
丸竹押え縁 2本使い エンド



押え縁 半割竹 センター



押え縁 半割竹 エンド



加工方法

エバーアートボードを施工するために必要な工具および加工は以下をご参照ください。

※QRコードの動画は音声が出ますのでご注意ください。

部材	加工	イメージ	必要工具
ボード本体	本体の切詰め 		電動丸鋸 カッター、ジグソー 万能ばさみ + 金尺、直尺
	照明取付等の 穴あけ		ドリル、ジグソー 自在錐(きり)、 ホールソー
見切材	90°コーナー 突き合せ 		卓上丸鋸 (45°角度切り)
見切材 ロング	90°コーナー 突き合せ 		卓上丸鋸 (45°角度切り)

加工方法

エバーアートボードを施工するために必要な工具および加工は以下をご参照ください。

※QRコードの動画は音声が出ますのでご注意ください。

部材	加工	イメージ	必要工具
平目地 ジョイント	センター ジョイント 突き合せ 	切断+ペンチ、カッター 23mm ※縦勝ちの場合	鋸(金物用) ディスクグラインダー + ペンチ カッター 鉄ヤスリ
出隅 コーナー	出隅 コーナー 突き合せ 	見切材ロング使用時 見切材使用時 45° 切断のみ 45° 後側を3mm程度鉄ヤスリで削る。 23mm 切断+ペンチ、カッター	ディスクグラインダー + ペンチ カッター 鉄ヤスリ
木柄押え縁	90°コーナー① 突き合せ		卓上丸鋸 (45°角度切り)
	90°コーナー② 突き合せ	 ※横勝ちの場合	卓上丸鋸 (金物用)
竹柄押え縁	90°コーナー① 突き合せ		卓上丸鋸 (45°角度切り)
巾木	見切材との 組み合わせ	巾木の側面に見切り材を使用する場合、 下図のように切り欠き加工をしてください。 切り欠き加工 22 30 35 見切り材 断面図 アートボード 巾木 溝カバー 見切り材	ディスクグラインダー + ペンチ カッター 鉄ヤスリ

加工方法

エバーアートボードを施工するために必要な工具および加工は以下をご参照ください。

部材	加工	イメージ	必要工具
嵌合見切 ベース材 (樹脂)	他部材との 組み合わせ		鋸(樹脂用) カッター 鉄ヤスリ
	嵌合見切同士 90°コーナー 突き合せ		鋸(樹脂用) カッター 鉄ヤスリ
嵌合見切 押え材 (アルミ)	他部材との 組み合わせ	<p>※押え材と見切材が干渉する場合は、押え材を加工してください。 ※押え材の側面が露出する納まりの場合は、見切り材側を加工してください。</p>	卓上丸鋸 鋸(金物用) 鉄ヤスリ
	嵌合見切同士 90°コーナー 突き合せ		卓上丸鋸 (45°角度切り)

施工の前に…

⚠️ ご注意

- RC壁へ直貼施工しないでください。
- 現場によりボードと下地の間に水がたまるような場所への取り付けとなる場合は、水抜き穴を設けるなど、水がたまらないように注意してください。
- ※たまった水の膨張により、ボードの変形、剥がれ等の不具合を引き起こす原因となりますので、ご注意ください。

■下地の確認

施工可能な下地	処理の必要な下地	施工できない下地
<ul style="list-style-type: none"> ・モルタル面(ブロック下地) ・プラスターボード ・ケイ酸カルシウム板 ・※発泡スチロール(EPS) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック壁 → モルタル仕上げ 	<ul style="list-style-type: none"> ・天然大理石、石材 ・ポリエチレン、ポリプロピレン ・フッ素樹脂

※発泡スチロール(EPS)を貼り付けの際は、必ず「Sウォール接着剤 エフレックス」をご使用ください。

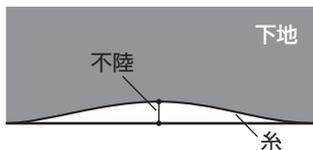
■不陸の確認と調整について(壁面、天井に貼り付ける場合、必ず確認してください)

不陸の確認

- ①タイルなど施工する下地表面の汚れを十分に除去します。
 - ②直定規、下げ振り、レーザーレベル等を使い壁面の水平・垂直の不陸を測定します。
- ※現下地で施工可能な**最大不陸は5mm未満(目安)**です。
5mmを超える場合は、下地を作製してください。

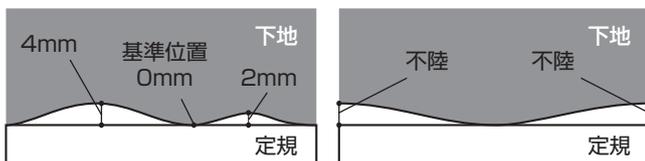
下地が凹の場合

糸を張り、すき間を測定します。



下地が凸の場合

水平な定規をあてがい、すき間を測定します。



不陸の調整

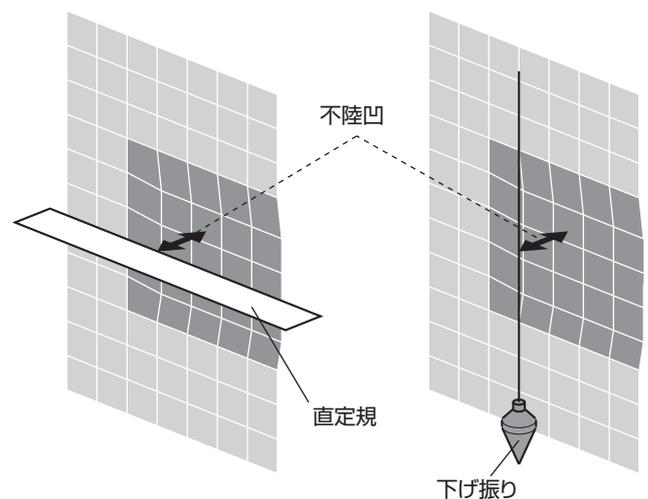
コンクリート、ブロックなどで下地を作り、表面を調整します。
ブロックの場合は、目地を埋めます。
※ブロック、コンクリートとモルタルの定着が悪いとはく離の原因となりますので、ご注意ください。

■切断および穴あけについて

切断は、当て木を用いて、必ず刃物を**意匠面**から入れ、**裏面**から出るように切断します。
穴あけも同様に、意匠面から穴をあけてください。

【横方向】

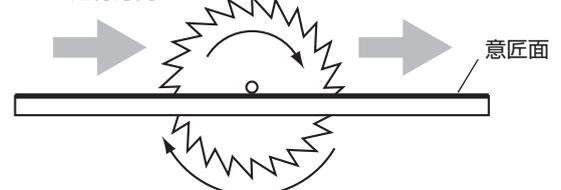
【縦方向】



⚠️ ご注意

下地材の選定や構造の作製を行う際は、建築基準法、火災予防条例などの法令、法規に適合していることを、必ず確認してください。

ノコ進行方向



⚠️ ご注意

木目調、石目調は柄目、色目がありますので、ご注意ください。
デザインに合わせて、施工してください。

組立・施工

施工する条件、場所に応じて以下を参照してください。

■見切り材、ジョイント、押え縁を使用して施工する場合 → P.10へ

■見切り材を使用せずボードを突き合わせて施工する場合 → P.17へ

■20角廻り縁の場合 → P.19へ

■巾木の場合 → P.20へ

■天井へ施工する場合 → P.21へ

組立・施工(見切材、ジョイント、押え縁を使用して施工する場合)

- ▶ ① 不陸の確認と調整 ▶ ② エバーアートボードの割り付け ▶ ③ 見切材の取り付け ▶ ④ 入隅、出隅コーナーがある場合の取り付け
- ▶ ⑤ 仮留めテープ、接着材の塗布 ▶ ⑥ エバーアートボードの貼り付け ▶ ⑦ 平目地ジョイントの採寸
- ▶ ⑧ 平目地ジョイントの加工 ▶ ⑨ 平目地ジョイントの取り付け ▶ ⑩ エバーアートボードの貼り付けと平目地ジョイントの取り付け
- ▶ ⑪ 天端の納め方(見切材ロングの場合) ▶ ⑫ 天端の納め方(見切材の場合) ▶ ⑬ 天端の納め方(嵌合式見切材の場合)
- ▶ ⑭ 目地をシールする場合の平目地ジョイント ▶ ⑮ 目地をシールする場合 ▶ 完成

① 不陸の確認と調整

P.8「不陸の確認と調整について」を参照し、下地材の不陸を調整します。

② エバーアートボードの割り付け

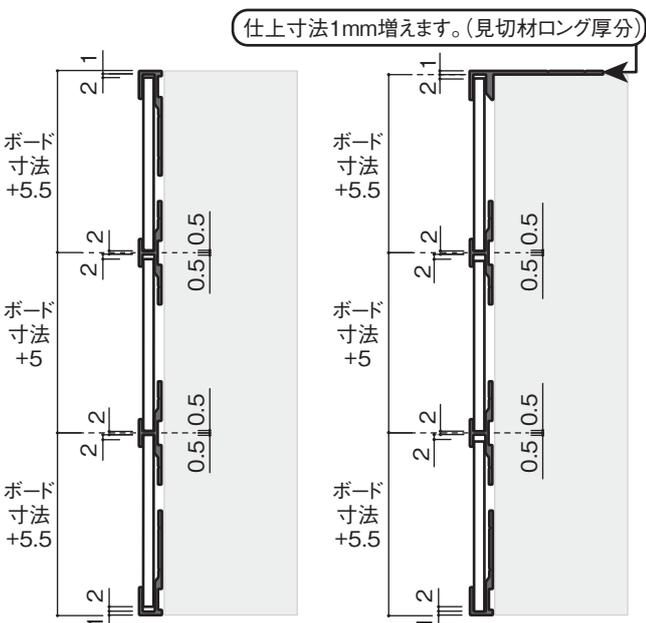
エバーアートボードを割り付けします。
 ※切断等の加工については、P.5～7「加工方法」を確認してください。

⚠️ ご注意

- ビスは下地に適したものを現場にて用意してください。
- 割付の際にはクリアランスを片側2ミリ必ず確保してください。

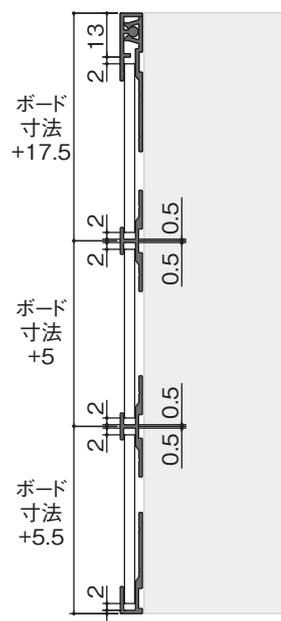
■ 割付寸法図

【見切材】+【平目地ジョイント】+
 【平目地ジョイント】+【見切材】



■ 割付寸法図(嵌合式見切材使用時)

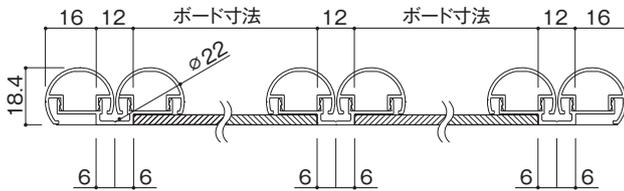
【嵌合式見切材】+【平目地ジョイント】+
 【平目地ジョイント】+【見切材】



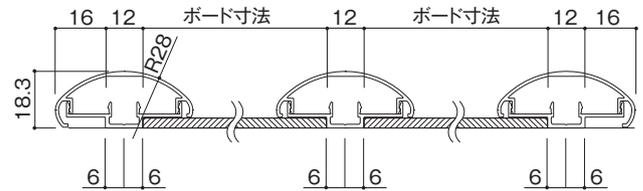
※嵌合見切材は下辺には使用できません。

組立・施工(見切材、ジョイント、押え縁を使用して施工する場合)

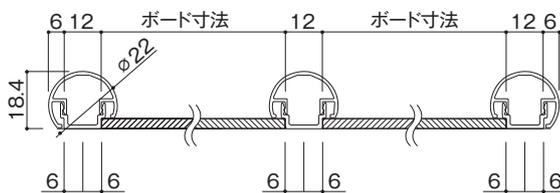
●丸竹押え縁2本使い 割付寸法図



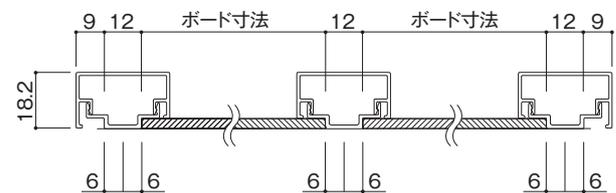
●押え縁半割竹 割付寸法図



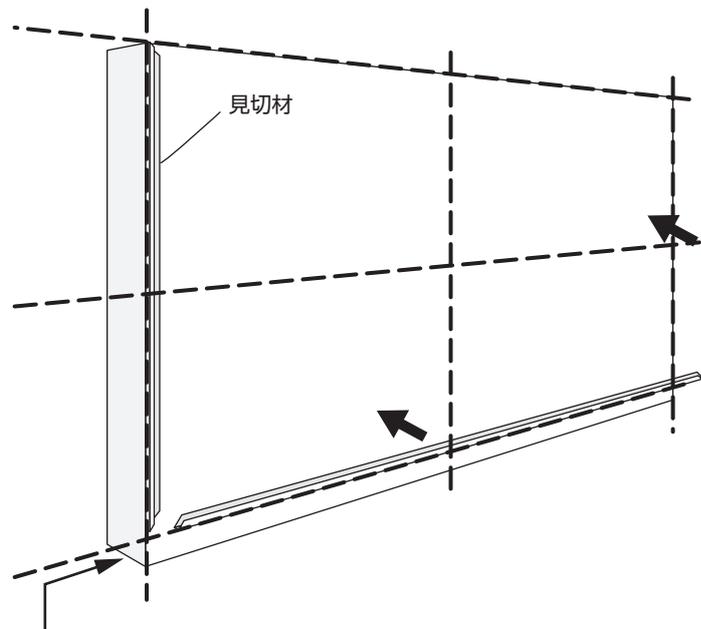
●丸竹押え縁1本使い 割付寸法図



●押え縁 割付寸法図



各割付寸法を参考に、取り付けの基準となる位置を墨出しして、見切材を割り付けてください。



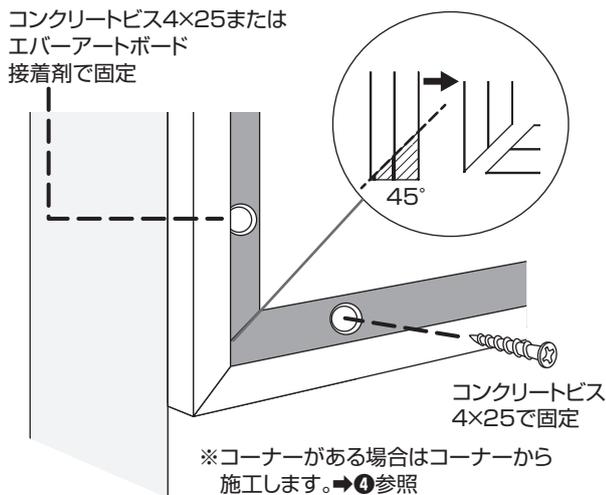
地面不陸の影響を受けないか
水平ラインのご確認をお願いします。

水抜きが必要となる設置条件の場合は、
水抜き目的として、見切材下にクリアランスを設けてください。

組立・施工(見切材、ジョイント、押え縁を使用して施工する場合)

③ 見切材の取り付け

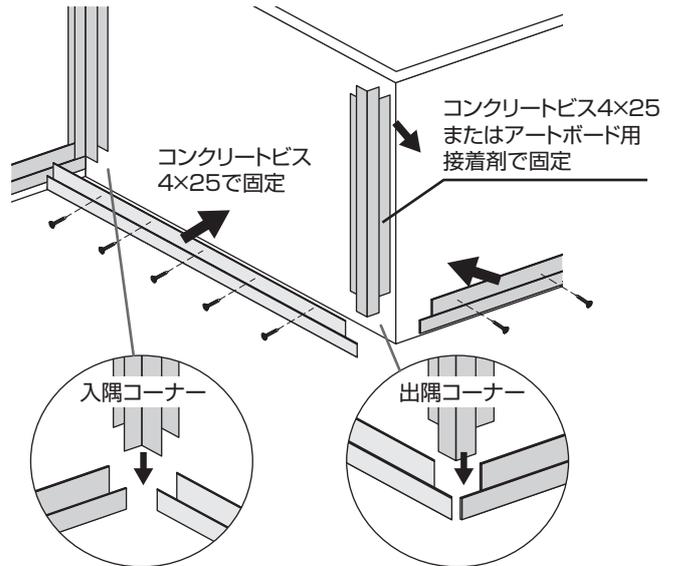
基準となる位置に合わせて、天端以外の見切材をコンクリートビス4×25で壁面に固定します。困難な場合は、エバーアートボード接着剤で固定します。



※ビスのピッチ
 中間は450mmピッチ以内、両端は30mm以内の位置で固定

④ 入隅、出隅コーナーがある場合の取り付け

コーナーがある場合は、コーナーから施工します。

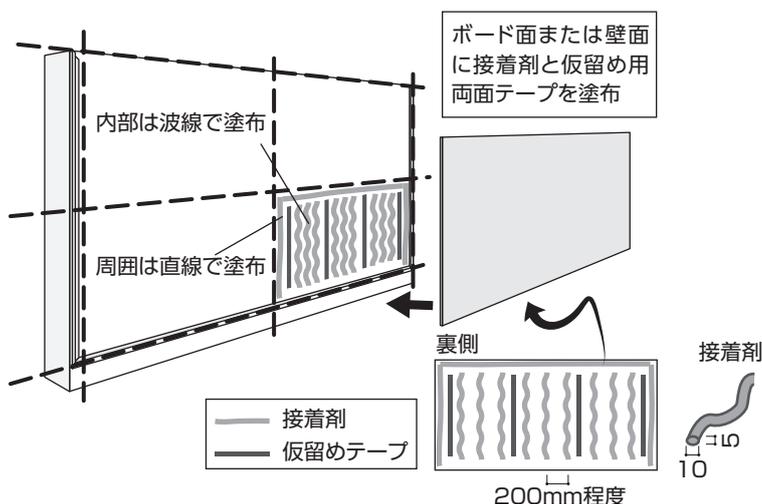


⑤ 仮留めテープ、接着剤の塗布

エバーアートボード用両面テープと接着剤を塗布します。

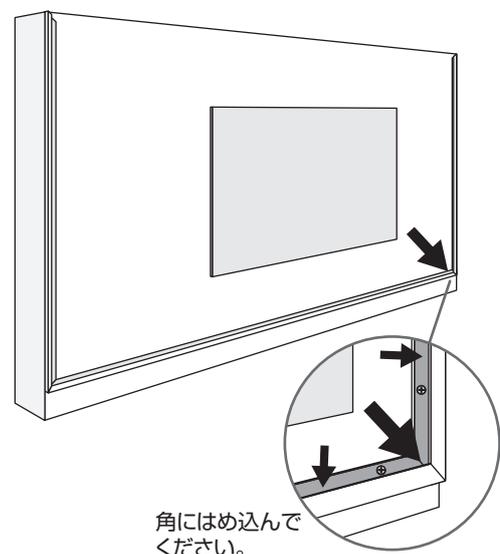
⚠️ ご注意

- 接着剤は高さ5mm、幅10mm程度、200mmピッチ以内で塗布してください。
- 接着剤塗布後15分以内に貼り付けてください。
- 一度にすべてのボードに塗布しないようにしてください。



⑥ エバーアートボードの貼り付け

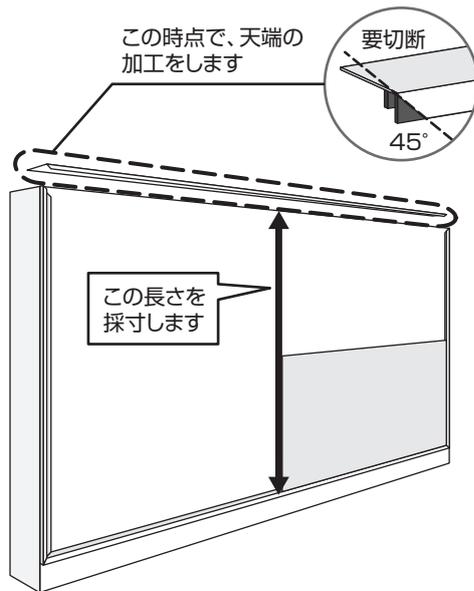
ボードを水平方向に、しっかりと角にはめ込みむように貼り付けます。



組立・施工(見切材、ジョイント、押え縁を使用して施工する場合)

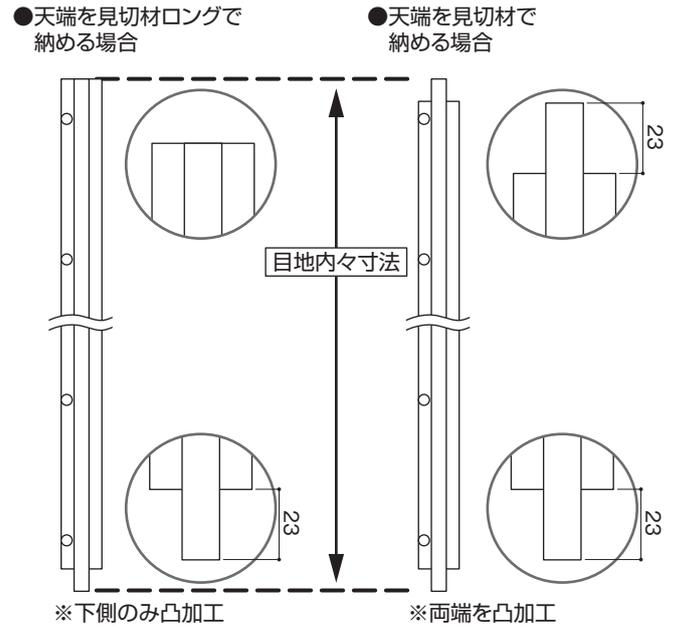
⑦ 平目地ジョイントの採寸

天端部材を仮組みしてセンターに入る
平目地ジョイントの寸法を決めます。



⑧ 平目地ジョイントの加工

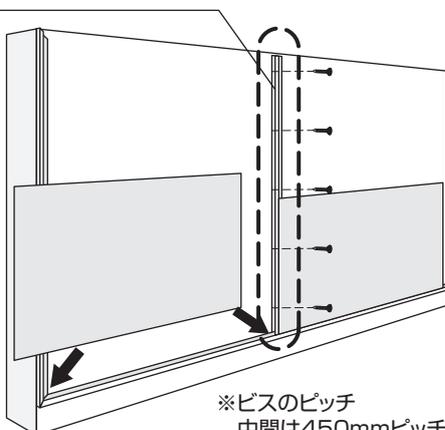
鋸(金物用)やディスクグラインダーを使って、
平目地ジョイントを加工します。



⑨ 平目地ジョイントの取り付け

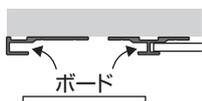
平目地ジョイントをコンクリートビス4×25で取り付け、次の
ボードがくる壁面、またはボード裏面に両面テープ、接着剤を
塗布し、ボードを貼り付けます。

片側をビスで450mm
ピッチ以内で取り付け



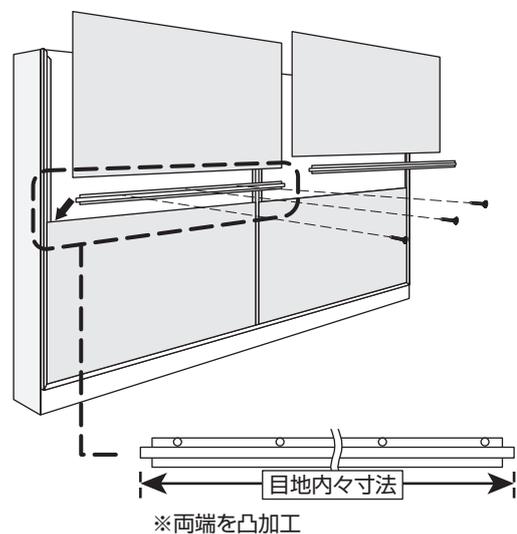
※両角に差し込むように入れます

※目地をシール処理
する場合→⑩⑪参照



⑩ エバーアートボードの貼り付けと平目地ジョイントの取り付け

平目地ジョイントを⑧同様に加工して、ビスで取り付け、次の
ボードがくる壁面、またはボード裏面に両面テープ、接着剤を
塗布し、ボードを貼り付けます。



組立・施工(見切材、ジョイント、押え縁を使用して施工する場合)

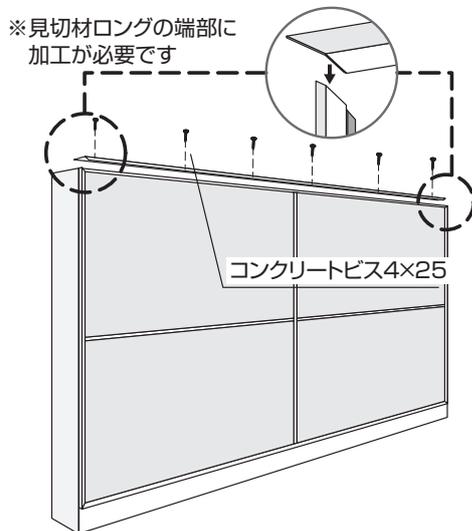
⚠️ ご注意

- 壁面に施工する場合は、天面には笠木、見切材を用いるなど、壁面とパネルとのすき間に水が入らないようにしてください。
- 壁面とボードの間に水が浸入する恐れがある場合は、天面にシーリング処理など止水対策を行ってください。

⑪ 天端の納め方(見切材ロングの場合)

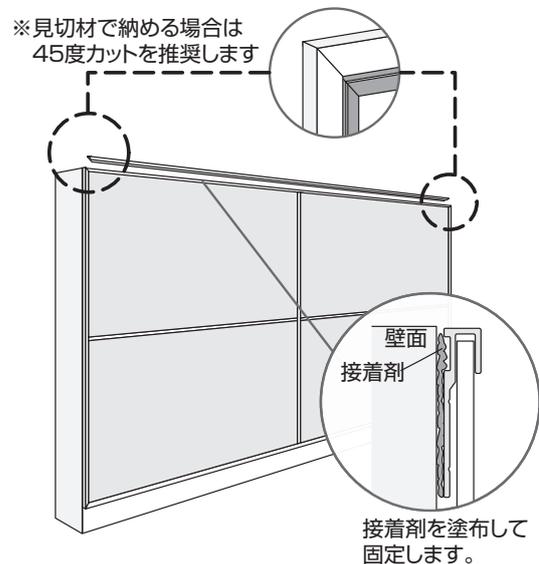
見切材ロングを加工して、コンクリートビス4×25で取り付けます。

※ビスで固定できない場合は接着剤で取り付けてください。



⑫ 天端の納め方(見切材の場合)

見切材で固定したい場合は見切材を取り付ける部分に接着剤を塗布してはめ込みます。

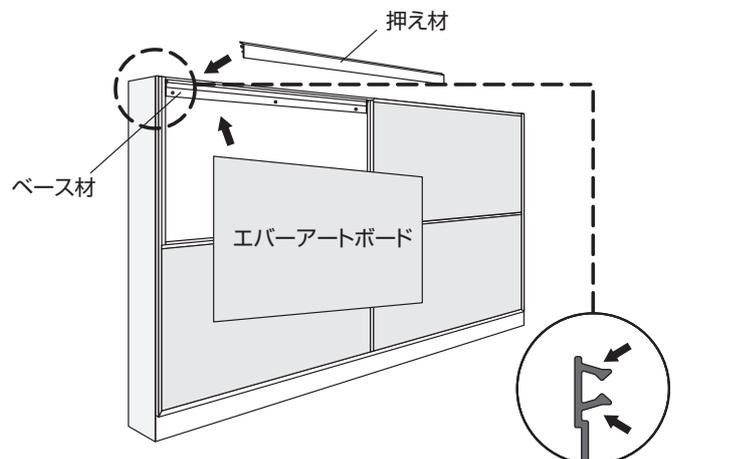
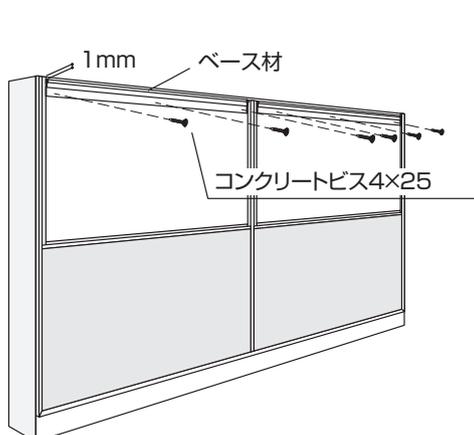


⑬ 天端の納め方(嵌合式見切材の場合)

①仕上がりラインから1mm内側へベース材をコンクリートビス4×25で取り付けます。

※ビスで固定できない場合は接着剤で取り付けてください。

②エバーアートボードをベース材に差し込み、最後にベース材に押え材をはめ込んでください。押え材の取り付けがゆるい場合は、ベース材の溝をカシメて調整を行ってください。



※ベース材の溝をカシメて強さを調整してください。

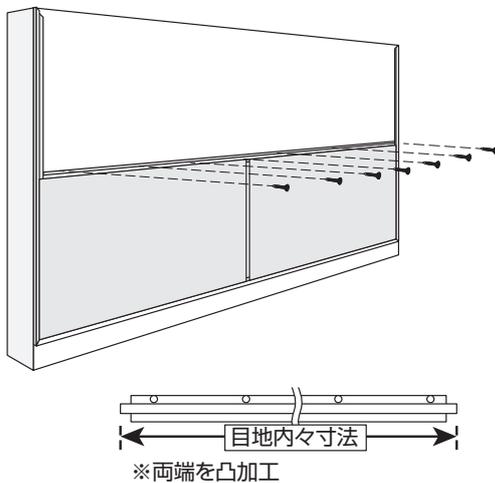
組立・施工(見切材、ジョイント、押え縁を使用して施工する場合)

⚠️ ご注意

- 壁面に施工する場合は、天面には笠木、見切材を用いるなど、壁面とパネルとのすき間に水が入らないようにしてください。
- 壁面とボードの間に水が浸入する恐れがある場合は、天面にシーリング処理など止水対策を行ってください。

⑭ 目地をシール処理する場合の 平目地ジョイント

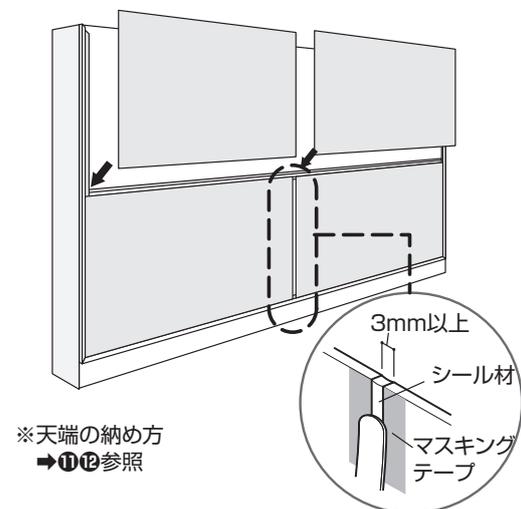
平目地ジョイントの両端の加工をしてはめ込み、
コンクリートビス4×25で取り付けます。



⑮ 目地をシール処理する場合

エバーアートボードの端部をマスキングテープ(現場手配)で養生し、シールを打ちます。

※次のボードがある場合は同様に貼り付けます。



組立・施工 (見切材を使用せずボードを突き合わせて施工する場合)

- ① 不陸の確認と調整 ▶ ② エバーアートボードの割り付け ▶ ③ 下地材の固定 ▶ ④ 仮留めテープ、接着剤の塗布
 ▶ ⑤ エバーアートボードの貼り付け ▶ ⑥ シール処理 ▶ ⑦ ボード小口の処理 ▶ 完成

① 不陸の確認と調整

P.8「不陸の確認と調整について」を参照し、下地材の不陸を調整します。

② エバーアートボードの割り付け

エバーアートボードを割り付けします。

※切断等の加工については、P.8「切断および穴あけについて」を確認してください。

③ 下地の固定

アートボードの突き合わせとなる部分に別売のアルミフラットバーを下地材として接着剤とビスを併用して取り付けます。

ポイント

アルミフラットバーをビスで固定する際、サラ頭のビスを使用し、フラットバーに対してサラ穴加工を施して固定してください。

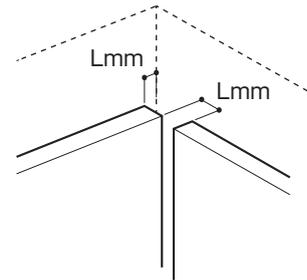
④ 仮留めテープ、接着剤の塗布

① エバーアートボードに**仮留めテープ**を貼り付けます。
 ※仮留めにはエバーアートボード両面テープ(別売)を使用してください。

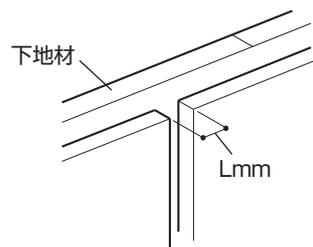
② エバーアートボードに**接着剤**を塗布します。
 ※接着にはエバーアートボード接着剤(品番: PM-165R / 別売)を使用してください。

⚠️ ご注意

- 接着剤は高さ5mm、幅10mm程度、200ピッチ以内で塗布してください。
- 接着剤塗布後**15分以内**に貼り付けてください。
- 天端に笠木、見切材を用いるなど、壁面とパネルとのすき間に水が入らないようにしてください。

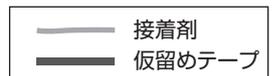
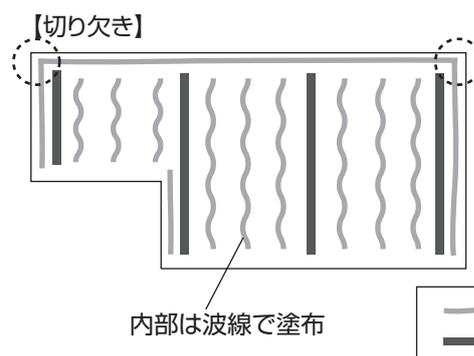
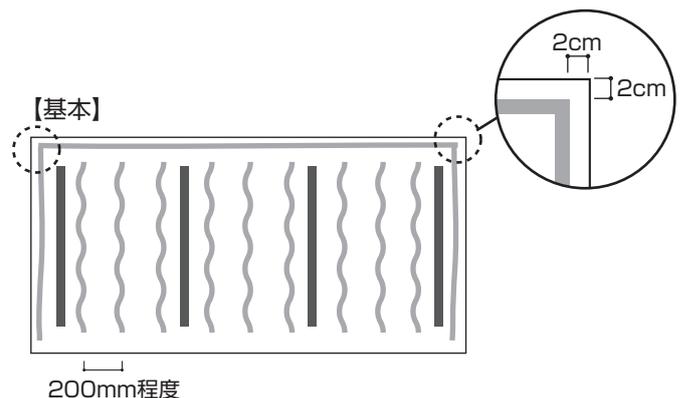


※突きつけ施工はできません。
 目地は必ず、3mm以上取ってください。



ボード長さ	Lmm
900(910)	3
1800(1820)	5
2400(2440)	6

※下地材がケイ酸カルシウム板の場合、下地材目地とボードの目地が重ならないようにしてください。



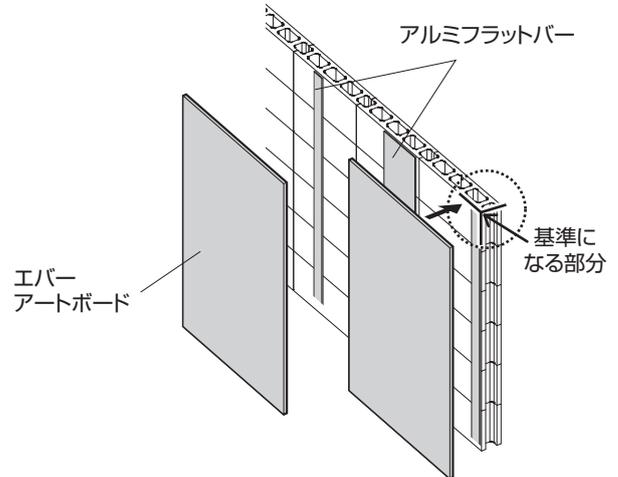
組立・施工 (見切材を使用せずボードを突き合わせて施工する場合)

⑤ エバーアートボードの貼り付け

- ① 基準になる部分にエバーアートボードを合わせます。
- ② 仮留めテープを押さえるようにして、エバーアートボードを貼り付けます。このとき、中央部に浮きが発生しないように、しっかり押さえつけてください。

⚠️ ご注意

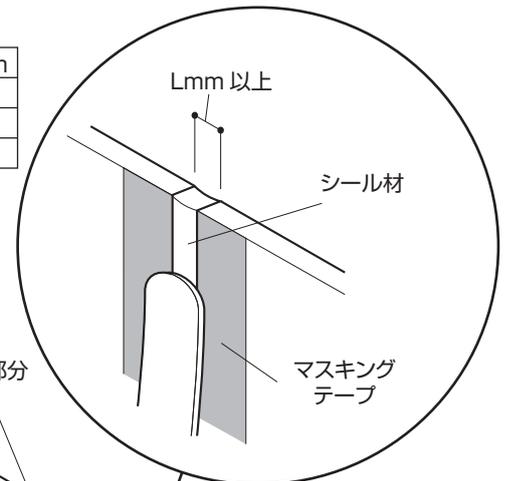
ボードは、デザインにより上下があります。貼り付け時、デザインの向きに注意してください。



⑥ シール処理

- ① エバーアートボードの端部をマスキングテープ(現場手配)で養生し、シールを打ちます。
- ② 余分なシール材を、シールを打つヘラ等でかき取ります。
- ③ シール材が硬化した後、マスキングテープを取り除きます。

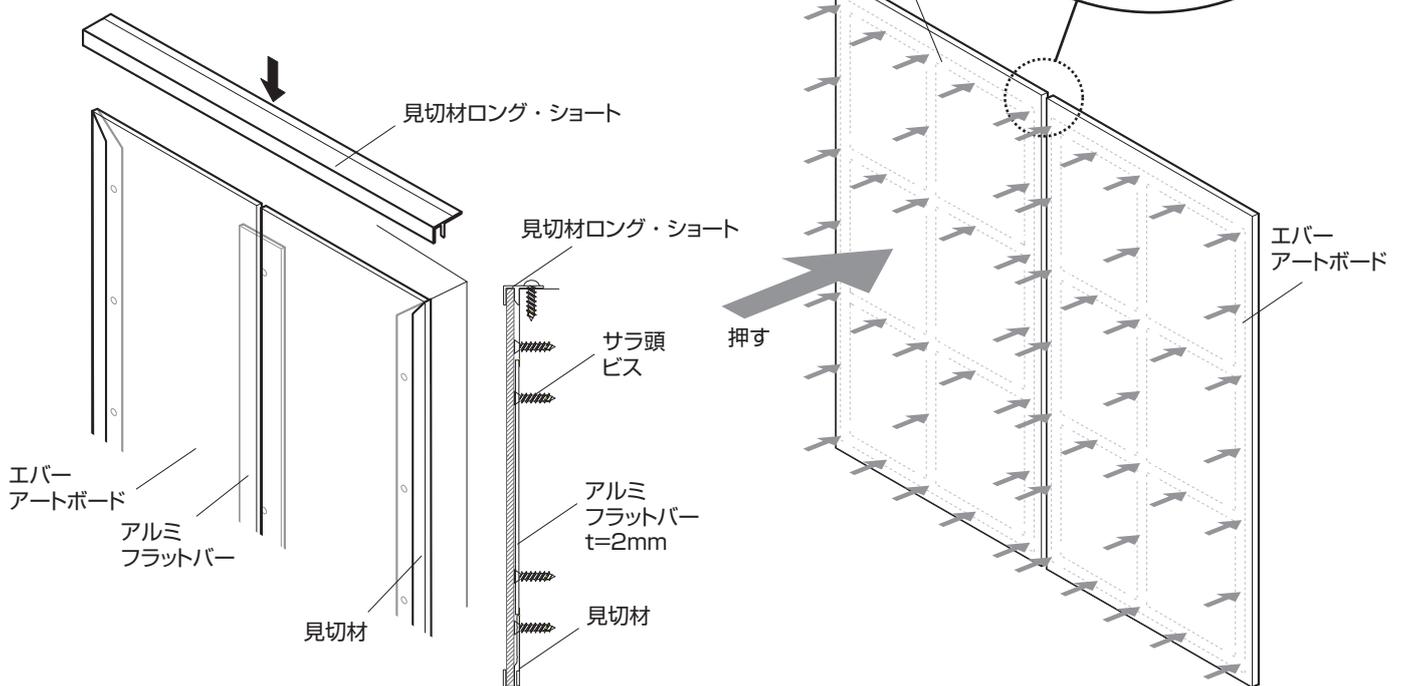
ボード長さ	Lmm
900(910)	3
1800(1820)	5
2400(2440)	6



⑦ ボード小口の処理

もしもアートボードの小口が露出する場合は、周囲を見切材でカバーしてください。その際、端部のフラットバーは必要ありません。

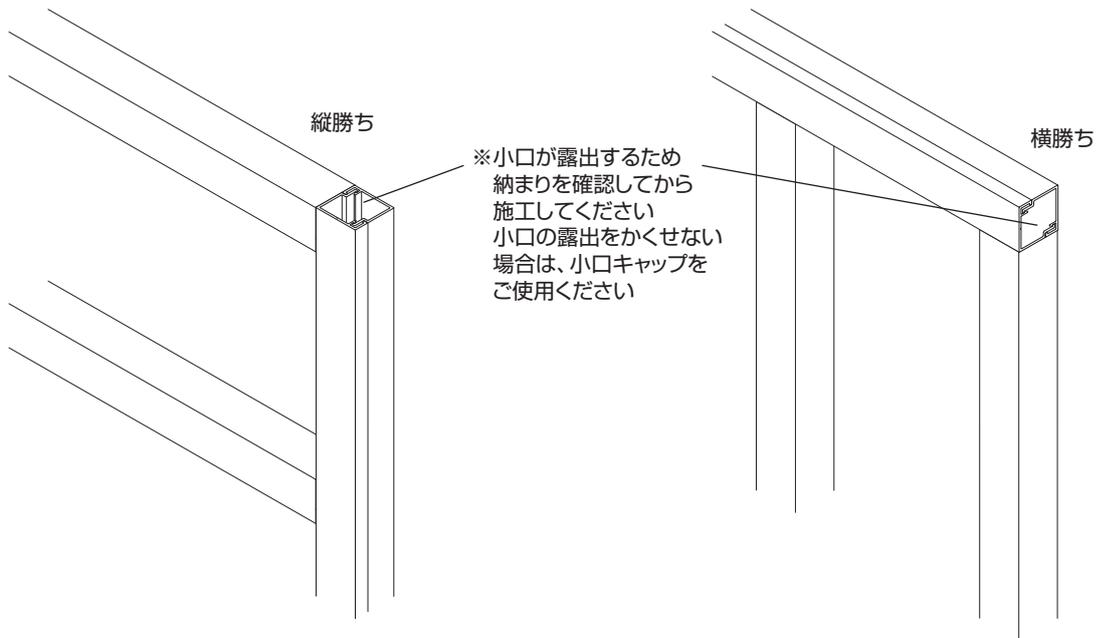
仮留めテープ部分



組立・施工(20角廻り縁の場合)

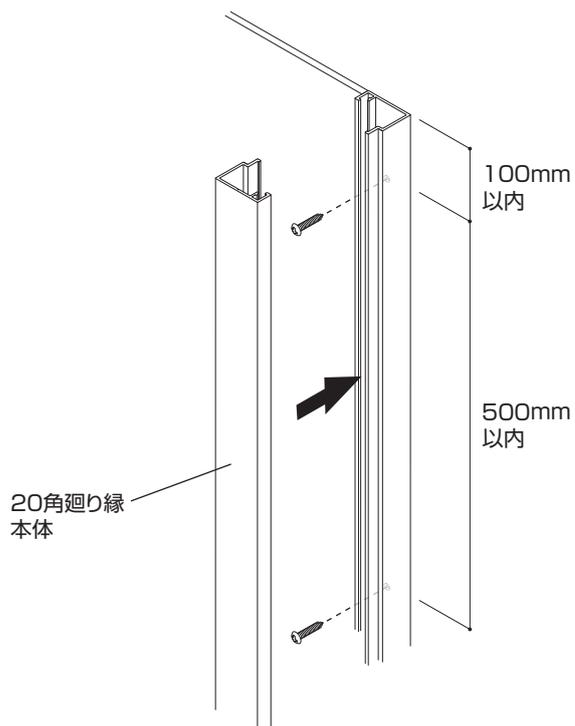
① 縦勝ち、横勝ちを決める

20角廻り縁の縦勝ち、横勝ちを決めます。



② 20角廻り縁の取り付け

20角廻り縁をビスで固定します。

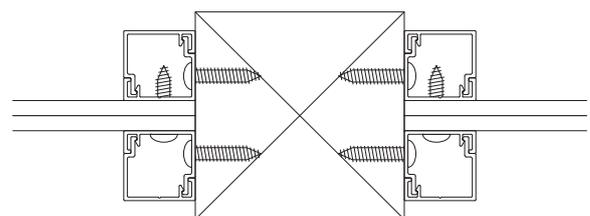


【RC/胴縁への取り付け】



※勤合力所が2カ所できるので、向きに注意して固定してください

【柱への取り付け】

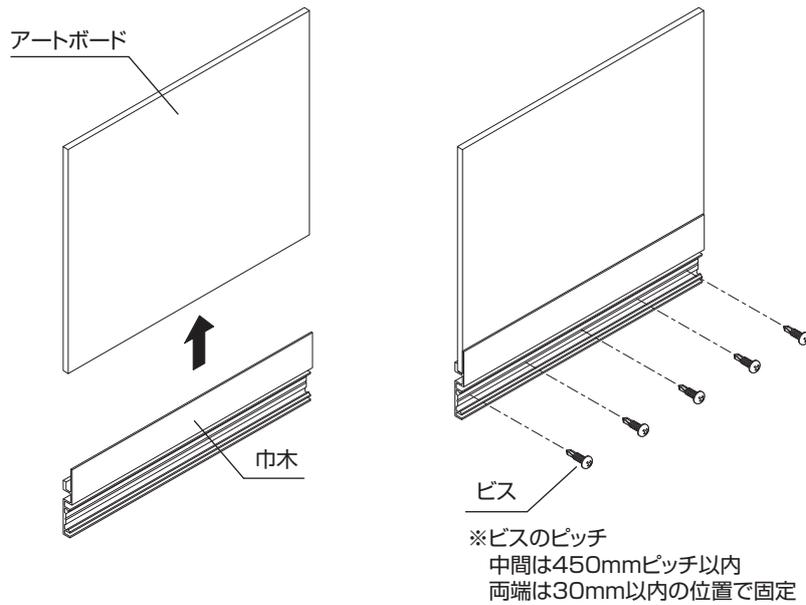


組立・施工(巾木の場合)

① 巾木の取り付け

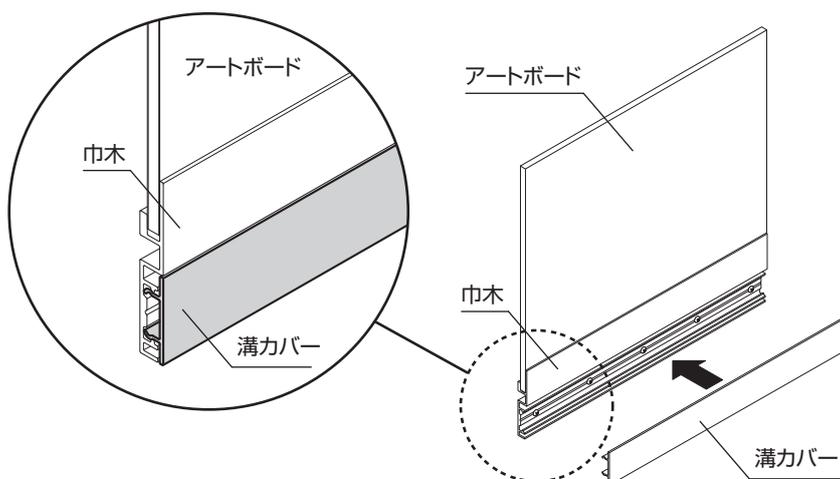
アートボードを巾木に差し込み、巾木をビスで固定します。

※取付場所に適合したビスをお使いください。



② 溝カバーの取り付け

巾木に溝カバーを取り付けます。



組立・施工(天井へ施工する場合)

※2辺に嵌合式見切材を使用する例です
(4辺を通常の見切材で納める場合もあります)

- ▶ ① 不陸の確認と調整 ▶
- ▶ ② エバーアートボードの割り付け ▶
- ▶ ③ 見切材の取り付け ▶
- ▶ ④ 平目地ジョイントの採寸 ▶
- ▶ ⑤ 平目地ジョイントの加工・取り付け ▶
- ▶ ⑥ 平目地ジョイントの加工・取り付け2 ▶
- ▶ ⑦ 仮留めテープ、接着剤の塗布 ▶
- ▶ ⑧ エバーアートボードの貼り付け ▶
- ▶ ⑨ 終端の納め方(嵌合式見切材の場合) ▶
- ▶ ⑩ 中央部から施工を始める場合 ▶ 完成

① 不陸の確認と調整

P.8「不陸の確認と調整について」を参照し、下地材の不陸を調整します。

② エバーアートボードの割り付け

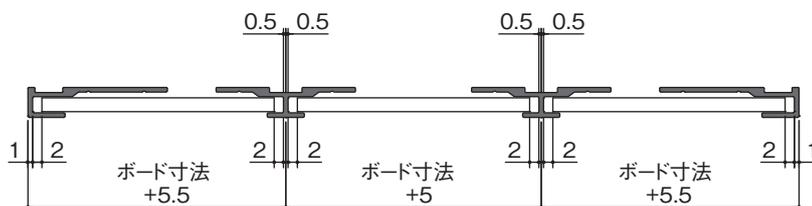
エバーアートボードを割り付けします。
※切断等の加工については、P.5～7「加工方法」を確認してください。

⚠ ご注意

- ビスは下地に適したものを現場にて用意してください。
- 割付の際にはクリアランスを片側2ミリ必ず確保してください。

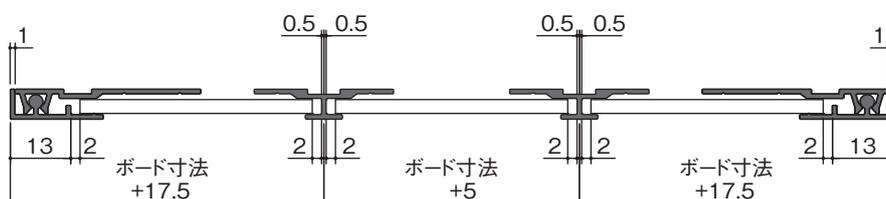
■ 割付寸法図

[見切材]+[平目地ジョイント]+[平目地ジョイント]+[見切材]



■ 割付寸法図(嵌合式見切材使用時)

[嵌合式見切材]+[平目地ジョイント]+[平目地ジョイント]+[嵌合式見切材]



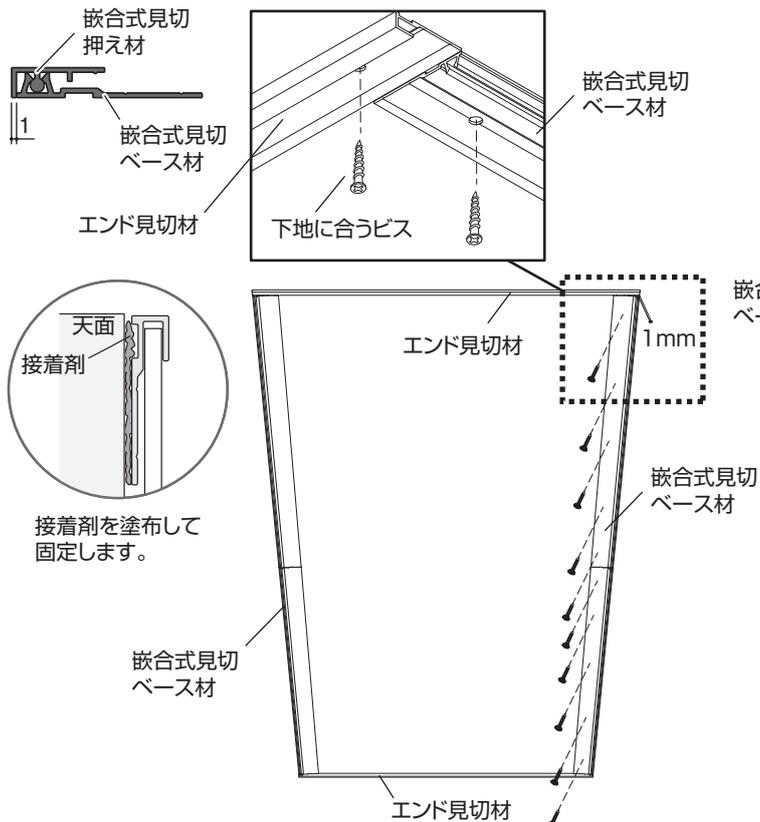
組立・施工(天井へ施工する場合)

※2辺に嵌合式見切材を使用する例です
(4辺を通常の見切材で納める場合もあります)

③ 見切材の取り付け

嵌合式見切押え材が1mm被ってくるので、嵌合式見切ベース材を施工するには仕上がりラインから1mm内側へ下地に合うビスで取り付けてください。

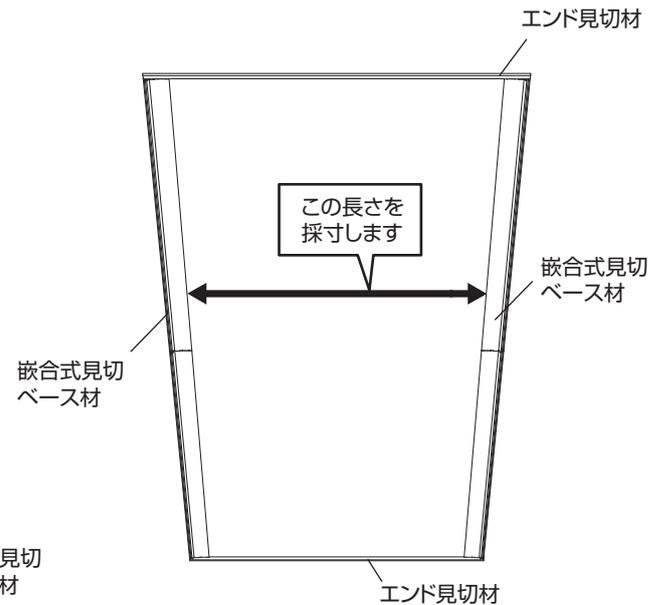
※ビスで固定できない場合は接着剤で取り付けてください。



※ビスのピッチ
中間は450mmピッチ以内、両端は30mm以内の位置で固定

④ 平目地ジョイントの採寸

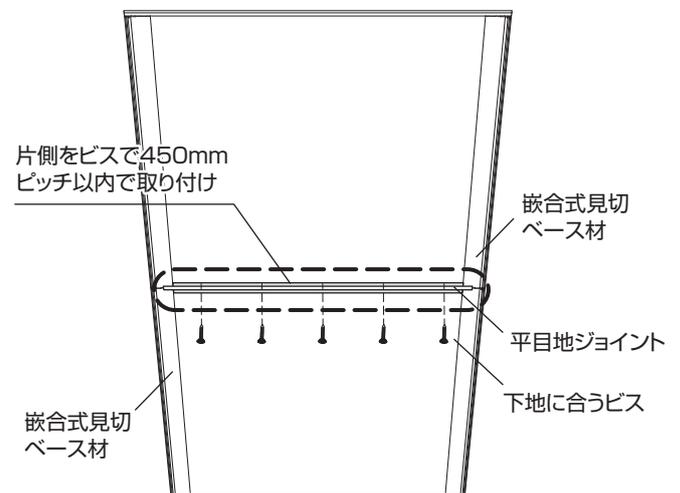
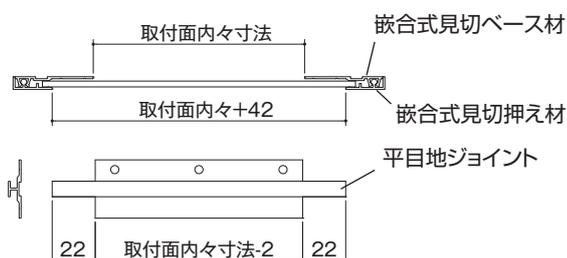
天端部分を仮組みしてセンターに入る平目地ジョイントの寸法を決めます。ベース材取付面の内寸法を計測してください。



⑤ 平目地ジョイントの加工・取り付け

鋸(金物用)やディスクグラインダーを使って、平目地ジョイントを加工します。

●嵌合式見切材同士に突き当たる平目地ジョイントの加工



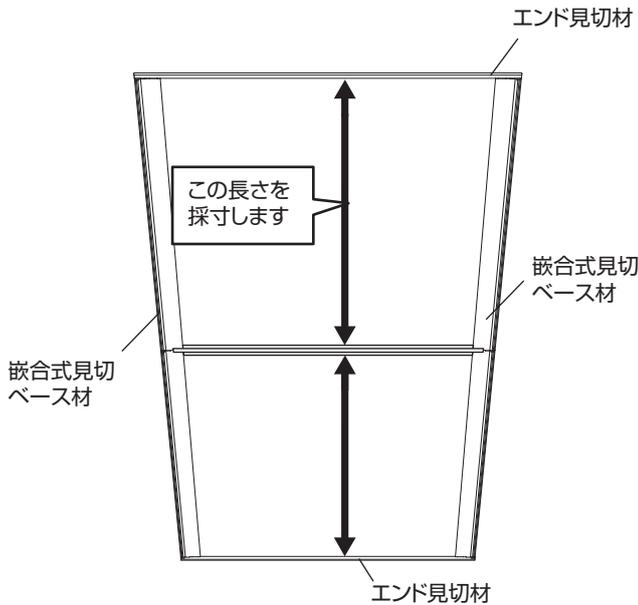
平目地ジョイントを下地に合うビスで取り付けます。

組立・施工 (天井へ施工する場合)

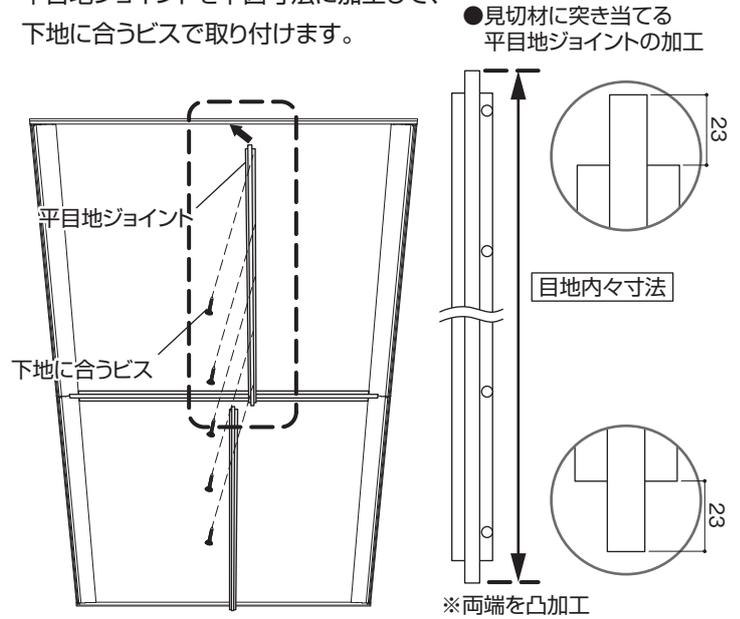
※2辺に嵌合式見切材を使用する例です
(4辺を通常の見切材で納める場合もあります)

⑥ 平目地ジョイントの加工・取り付け2

見切材見つけ部分の内寸法を計測してください。



平目地ジョイントを下図寸法に加工して、
下地に合うビスで取り付けます。



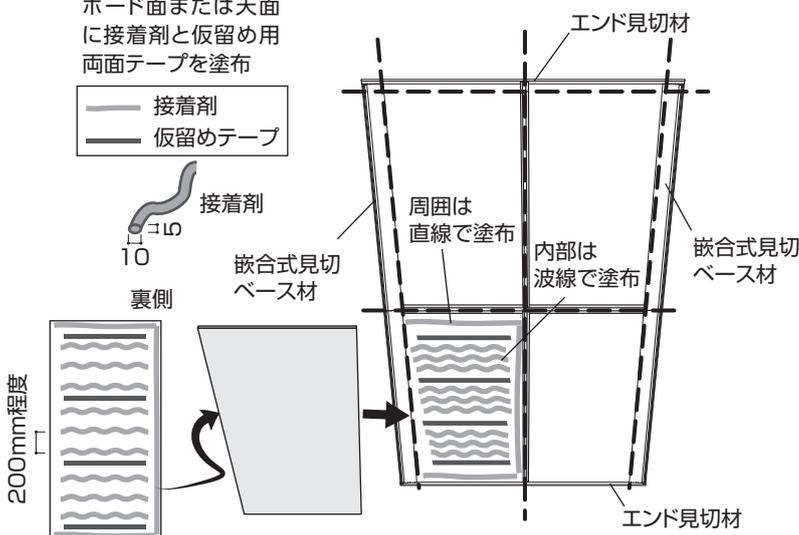
⑦ 仮留めテープ、接着剤の塗布

エバーアートボード用両面テープと接着剤を塗布します。

⚠️ ご注意

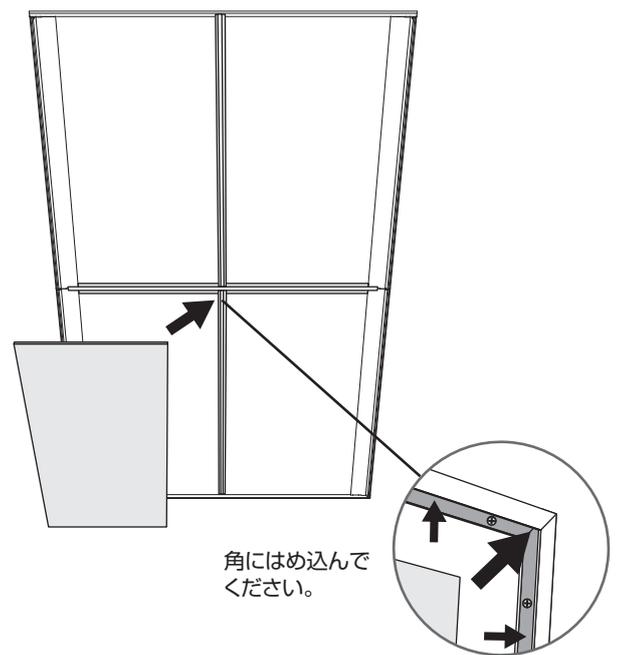
- 接着剤は高さ5mm、幅10mm程度、200mmピッチ以内で塗布してください。
- 接着剤塗布後15分以内に貼り付けてください。
- 一度にすべてのボードに塗布しないようにしてください。

ボード面または天面に接着剤と仮留め用両面テープを塗布



⑧ エバーアートボードの貼り付け

ボードを水平方向に、しっかりと角にはめ込むように貼り付けます。



組立・施工(天井へ施工する場合)

※2辺に嵌合式見切材を使用する例です
(4辺を通常の見切材で納める場合もあります)

⚠️ ご注意

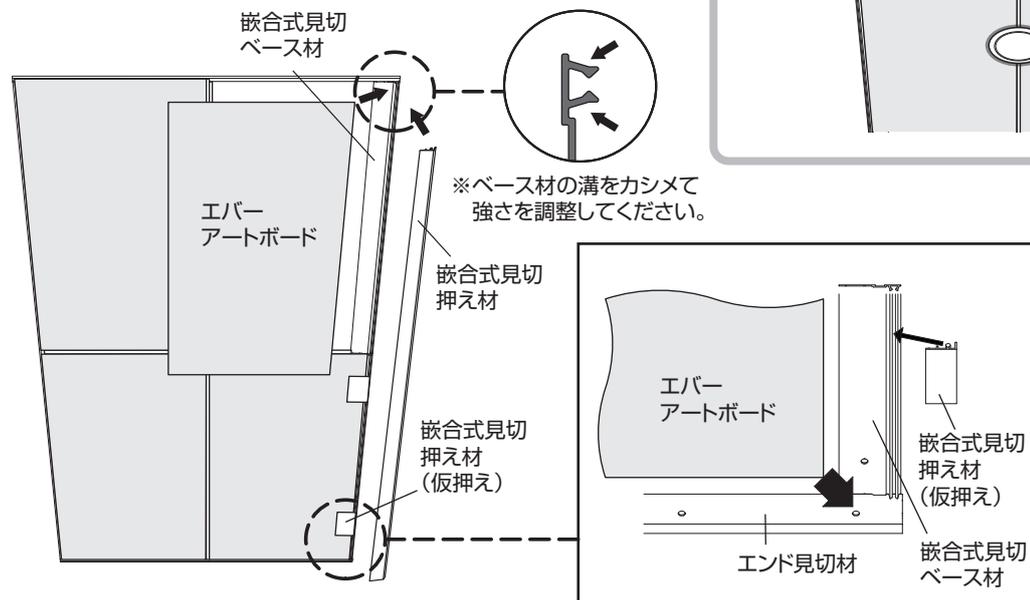
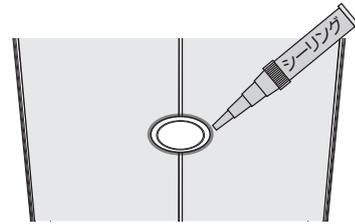
- 軒天井に施工する場合は、水切りを設けるなど、天井面とパネルとのすき間に水が入らないよう対策してください。
- 天井とボードの間に水が浸入する恐れがある場合は、シーリング処理など止水対策を行ってください。

⑨ 終端の納め方(嵌合式見切材の場合)

エバーアートボードをベース材に差し込み、最後にベース材に押え材をはめ込んでください。押え材の取り付けがゆるい場合は、ベース材の溝をカシメて調整を行ってください。

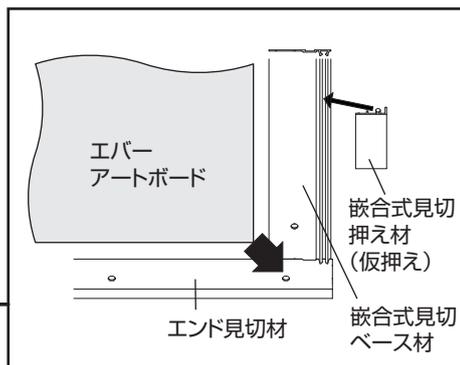
💡 ポイント

見切材が取り付けられないダウンライト周辺などは、シーリング処理で納めてください。



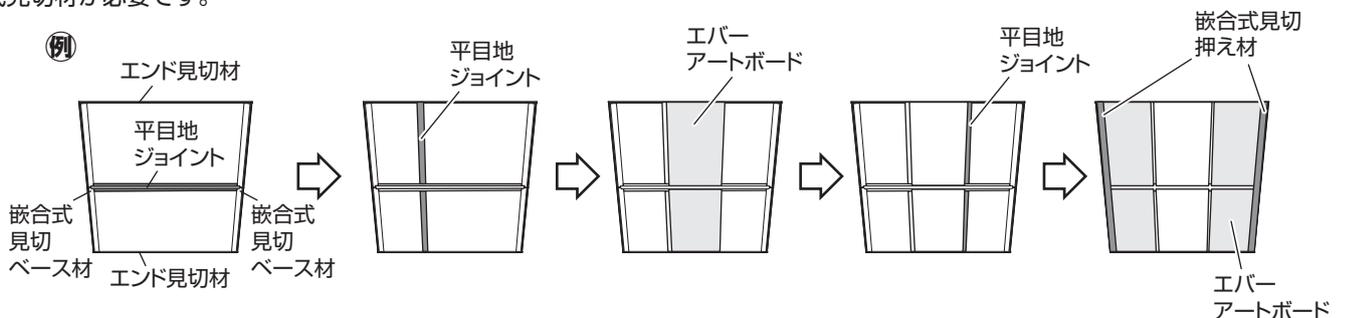
💡 ポイント

50mm程度にカットした押え材を使って、ボードの仮押えが行えます。



⑩ 中央部から施工を始める場合

手順を組み替えて施工してください。最後に納めるパネルには嵌合式見切材が必要です。



参照手順

③ ④ ⑤

⑥

⑦ ⑧

⑥

⑨

お客様サービスセンター

通話料無料 0120-51-4128

受付時間/月～金 AM9:00～PM5:00(祝日は除く)

株式会社タカショー

本社/〒642-0017 和歌山県海南市南赤坂20-1 TEL. 073-482-4128(代) FAX. 073-486-2560(代)



【お客様サービスセンターにおけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】株式会社タカショーおよびタカショーグループ関連会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくための、発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、お客様サービスセンターまでご連絡ください。